

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	こぼんはうすさくら横浜鶴見教室		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2026年 1月 7日		2026年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準人員配置の徹底。活動スペースの広さ。	マンツーマン要因の配置には、特定職員に限らず担当を前日に決めている。それにより、支援の方向性や課題を話し合う人数が増え、カンファレンスの時間を作ることができた。お子さまの様々な発信を、見逃さず受容することに意識した配置を行い、職員の立ち位置や現場での動きやすさを重視した導線確保している。	マンツーマン要因を配置することに限りがあり、難しさが生じる曜日もある。支援の方向性を見直す際は、マンツーマン要因になっている部分の改善を図り、少しでもできることを増やしていけるようにする。スペースの広さから、活動中、行動が高揚してしまうことが多いため、一斉指示の声掛けは常に慎重に行うことに意識していく。
2	構造化を用いたお教室づくり	導線上に物が散乱しないよう、コーナーに分かれて玩具を出す際は、色別に分かれたブースを作る。また、時間を決めて玩具の変更をしている。課題を行う机と、遊びの机の色を変え、パーテーションを立てることで、課題を行う際に遊びの延長とならないよう気持ちを切り替えている。個室がなくても、分かりやすく活動できるように工夫している。	自分の物の管理を行うために、様々な場所に名前とマークを提示しているが、視覚から情報を示すには少し小さいため大きく提示したい。本日のスケジュール表に、時間的構造化を用いた時計のマークを提示したい。
3	集団プログラムの多様化、充実した内容。	ご領域に合わせた取り組みを行う中で、子供たちのできた達成感が感じられるように配慮している。年齢や特性、その他、発達のレベルに合わせ、出来ることを出来る範囲で全員参加のプログラム構成となっている。	何度も繰り返し行っているプログラムに関しては、前回と同じ内容ではなく、少しでも変化を付けていきたい。発達の基盤となる感覚に関しては、1年スパンで毎月行える取り組みを開始し、今年度は音階の違いを階段に模して体験できるように取り組んだ。年度の終わりには養った感覚で発表ができるとうい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個室がない。一軒家のため、バリアフリー化が難しい。	気持ちが崩れてしまった際に、安心して表出する場やコントロールを促す場所がない。集団の中で支援するしかなく、丁寧な対応が難しい。また、子どもたちの視覚に、どうしても階段が見えてしまうので、マットで入口を抑えるしかできない。入り口に段がありフラットになっていないため危険がある。	気持ちの切り替えや感情のコントロールを行う場所がなく、パーテーションで視覚を遮るしかない。今後はクールダウンスペースとして、安心して過ごせる空間を設けたい。入口の段には、下駄箱の横に踏み台を制作。使いやすさ、危険性も今のところ問題ない。
2	トイレが狭い。介助スペースがない。水道が一つしかない。	トイレのスペースが狭く、トイレ介助が必要な場合にも職員が一緒に入ることによる窮屈さがある。また、おむつ替えや順番に並ぶ位置がなく、水道も一つしかないため、時間がかかってしまう。	順番を並ぶ位置が狭いため、多くの人数を呼ぶことが出来ず、また、多く並んでしまうとトラブルもあった。並ぶ場所の足跡マークにはカラフルな色を付けたり壁には平仮名・カタカナ表や国旗などを付ける工夫を行う。
3	保護者会の開催ができない。	保護者会のニーズがあまりないが、ペアレントトレーニングを求めているご家庭もあるので事例を用いた勉強会や、保護者同士の意見交換の場は設けたいと感じている。	年に一回、教室開放を行うお祭りを開催している。毎年楽しみにしている方が多く、毎年賑わいを見せていることからこういった取り組みを増やしていければと感じる。

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	こぼんはうすさくら 横浜鶴見教室		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数) 40
○従業者評価実施期間	2026年 1月 7日		2026年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達主催の教室。考える力や自主性、助け合う意識を高める活動。	子どもたちはその日ごとに担当があり、会の日直や挨拶の司会、お手伝いの役割を与えられている。教室内では、自由に行動してよいわけではなく、自分で考えて行動すること、指示を聞き入れることが重要ではなく、指示に従ってどのように行動するかを意識を持っている。	見る力・聞く力・考える力を養い、自主性を高めていく。社会性を育てるため、必要に応じて子ども同士の話し合いを作っていく。誰かに相談することや、素直に人を頼ることが難しい子どもも多く、自我やこだわりもある。キーパーソンとなる児童を決め、悩みや抱えている問題点に気付くことも重要と考えている。
2	クラブ活動の導入。選択肢による活動の活性化。	子どもたちの好きなことに特化した構成で、学校などの機関にあるクラブ活動を導入。料理クラブ・ダンスクラブ・イラストクラブ・ポッチャクラブなど、子どもたちの意見も聞き取りながら取り組んでいる。土日祝日、長期休みがメインとなっているが、集団プログラムとは別に取り組んでいる。	自分の興味があるクラブに自分で選択して入ることで振り返りを行い、できるようになった事に自信を付けている。ストレンスを伸ばす中、同じ興味をもっている友達との関わりを深められている。今後は新しいクラブを取入れ、興味関心の幅を広げていきたい。
3	集団プログラムの多様化。充実した内容。	ご領域に合わせた取り組みを行う中で、子どもたちのできた達成感を感じられるように配慮している。年齢や特性その他、発達のレベルに合わせ、出来ることを出来る範囲で全員参加のプログラム構成となっている。	何度も繰り返して行っているプログラムであっても、前回と同じ内容ではなく、少しでも変化を付けていきたい。子どもたちの苦手な野菜を使った食育を行ったり、ひらがな・数字・英語・ローマ字を学習するプログラムを行っているが、ゲーム性を取入れたりダンスをするなどの工夫をすることで苦手意識を持たず挑戦する気持ちに繋げていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運営時間が17:00までのため、児童のお預かり時間が限られている。	保護者の就労やレスパイトに合わせると、特に高学年のご利用が難しいご家庭があり通所曜日が限られてしまう。そのため、土日の利用が多くシフト調整や人員配置に困難がでることもある。	保護者の就労が終わり、ご帰宅されるまでの時間ができるだけ短くなるように送り届ける時間を遅くしたり、留守番委な際は送り届けた後に一報を入れたりしているが、自立に向けた支援を考えていく。
2	男性職員がおらず、高学年男子に対するトイレ介助問題がある。	女性職員が多いため、男子のオムツや排便後の仕上げ拭きなど介助が必要な児童の保護者には事前に同意をいただいております。高学年児童に対しては体も大きくなり力負けすることもあった。	お出掛けの引率などでトイレの問題が生じた際は、多機能トイレを使用しているが、今後は男性職員の入職も視野に入れていく。また、女性職員が男子オムツ介助をするにあたって、記載内容の確認を行い、いかなる場合も困難が生じないように体制を整えていく。
3	保護者会の開催ができない。	保護者会のニーズがあまりない。ペアレントトレーニングを求めているご家庭もあまりない。保護者の就労や学校で関わりを持っていることが原因と思われるが、意見交換の場（茶話会など）設けたいと感じている。	年に一度、教室開放のお祭りを開催している。毎年楽しみにしているというお声をいただき、賑わいを見せている。こういった場を定期的に行うことで、保護者同士の関わりが増えていけばよいと考えている。